

平成26年度

男 女 共 同 参 画 たより



古賀市男女共同参画啓発推進委員



目次

	ページ
一番効くお薬は“やさしさ”	1
人は言葉で生きている	2
正解がない2択	3
男も女も支えあわなければ、 戦国の世は生き抜けなかった	4
まずは実践!! そして継続!!	5

一番効くお薬は“やさしさ”

講演 ～支え合って生きる・認め合って生きる～
「八重子のハミング」

萩市金谷天満宮宮司 陽 信孝（みなみのぶたか）氏より

「男女共同参画のつどい」に参加者200人を超える

参加者の声：

- 生きる覚悟を考えさせられた
(50代男性)
- 人のやさしさ、おもいやり、
本当の愛情のあり方、大切さ、
強く感じました (60代男性)
- 最期まで相手の人格を尊重で
きるだろうか、自分自身に問
いました。 (50代女性)

平成26年6月28日(土)リーパスプラザ
2階大会議室にて、「古賀市男女共同
参画のつどい」を開催し、会場から
溢れるほど多くの方に参加いただき
ました。(参加者285名)
オープニングミニコンサートを皮切
りに、市民から募集した男女共同参
画に関する「一行詩」の最優秀作品
の表彰、男女共同参画を推進する団
体の紹介、最後に山口県萩市で教育
長をされていた陽氏による講演を行
いました。他にも、「一行詩」応募
作品や、男女共同参画を推進するグ
ループのパネル展示、農業女性によ
る地元農産物や、「まんま実～や」

の加工食品なども販売しました。
陽さんの講演では、冒頭で男女共同
参画の原点について会場に問いかけ
られ、ご自身の介護体験やガン闘病
体験談。アルツハイマー病になった
妻のことが理解できない孫に、「ば
あばの病気を治すお薬は、お医者さ
んからのお薬じゃない。みんなで優
しくすることが一番効くお薬なんだ
よ」と話し、家族一丸となって介護
生活を支えたこと。また、学校長・
教育長を勤められた経歴から、様々
な学校で講演した際のエピソードも
交え、男女共同参画・人権・青少年
育成もすべて同じところに大切なも
のがあること。怒りには限界がある
が、優しさには限界がないことを力
強く話されました。テレビ『奇跡
体験！アンビリバボー』で放映され
た映像を流し、最後は、妻、八重子
さんのために吹いていたというハー
モニカを演奏し、会場全員で「ふる
さと」を合唱しました。参加者から
は、時には笑いがおこり、最後には
涙を拭く方もおられる中、終了しま
した。



ハーモニカを演奏する陽信孝さん

男女共同参画に関する一行詩 最優秀作品 13作品

- ◆ ぼくのうちは パパもママもおしごと おうちのしごともおはんぶん 松野 悠輝さん「古賀東小」
- ◆ もう一つ。もう一つ。と積み重ねる努力。男も女も関係なく一緒に歩む道 井上 花音さん「古賀東小」
- ◆ 今日はお父さんやすみで お母さんしごと お母さんがかえる前におへやびかびか 牟田 進之介さん「千鳥小」
- ◆ 女子？男子？どちらでもいいよの人間だよ。ちがいをみとめあう心をもとう 安富 遥香さん「舞の里小」
- ◆ 「つりガール」「主夫」「なでしこジャパン」「男子ごはん」もって世の中に広まってほしいな 北村 美空さん「古賀西小」
- ◆ 男女関係なく接すれば笑顔が広がります 渡辺 彩菜さん「花見小」
- ◆ 料理教室で習ったロールキャベツを うちでふるまう僕の祖父 木村 祐来さん「古賀北中」
- ◆ 子育ては「手伝う」んじゃない、夫婦二人がそろってするもの 大澤 明紀さん「古賀北中」
- ◆ 男女を分けるメガネをはずして視野を広げると、新しい自分が見えてくる 稲澤 秀代さん「古賀中」
- ◆ 男性でも女性でも関係なく好きな事ができるよ 岩瀬 海斗さん「特別支援学校高」
- ◆ 男が働き 女は家事を そんな世の中 もう古い 桜井 悠貴さん「古賀成成館高」
- ◆ 職場でも、家庭でも感じる幸福は、男女平等、相手への思いやり 広渡 智恵美さん「遠賀信用金庫」
- ◆ 家事参加で 余裕が出来たと 妻の笑顔増え 井野口 寛人さん「一般」

人は言葉で生きている

平成26年8月23日 第1回男女共同参画セミナー

講演 「楽しく働き、楽しく生きる」

～私が私を変えたのではありません…仕事が変わったのです～

社員教育接遇マナー研究所代表 俵 純子（たわら じゅんこ）氏

楽しく働き、楽しく生きる

「人は言葉で生きている」ということをご自身の経験や出会った歌、映像、詩や言葉の紹介を通して感動的に伝えてくださいました。若くして結婚、出産、離婚を経てシングルマザーとしてパートから仕事を始め、正社員になれずマイナス思考になった時、「苦しみに押し潰されるか、苦しみをばねに飛躍するか、あなたはどちらか選べばいい」という詩に出会った。自分で選ぶことで前向きになれ、また次の出会いが状況を変えていった。働く理由なんてお金以外にあるわけがないと思っていたが、「ありがとう」の一言で涙が溢れる体験ができた。頼まれた仕事は元気に引き受けることを心掛けたことで、「頼みやすい」「元気がい

いね」と言われてうれしかったそうです。そして、自分がその気になったら色々な事に気づき必要に応じてアンテナが立っていくことを実感されました。パートの派遣社員だったころから独立して今までの、30年の間に会った方々に育てられたと、それぞれの出会いを紹介してくださいました。ワーク・ライフ・バランスで言えば、「あなたの夢は？」と聞かれ、仕事の組織目標は必ず持っていたも自分の私生活の方で持っていなかったことに気づいたこと、人だけではなくたくさんの方の素晴らしい言葉に出会えたことで楽しく働き、楽しく生きていけると実感していることを紹介していただきました。

働いていて、
「ありがとう」
の一言で涙が溢れた



俵 純子さん

セレンディピティは私にもある?!

未来に対して可能性を、夢・希望を持つこと、お互いに幸せであるために礼儀接遇を大切にすべきであると、「人は言葉で生きている」という表現で感動的に伝えてくださいました。人の心をつかむのがとても上手な人だなあ、と思いました。一つ一つの言葉が心を打つし、素晴らしいのはもちろんなのですが、話している時の俵さんの表情が「ぐっとくる。」と言えいいのでしょうか。心がこもっていて、当時の一生懸命さが伝わってくるのです。

「セレンディピティ」という言葉を、自分にとって価値あるもの大事な人・物に

出会える能力、あるいは偶然がきっかけで素晴らしい発明や発見をする能力と紹介してくれました。俵さんには大きな「セレンディピティ」が備わっているのだなあと感じました。そして今回、こんなに素敵な話を聴くチャンスに出会えた私にも「セレンディピティ」があったのかしらとうれしくなりました。人は人々を思う姿勢とか態度はスキルとか技術ではなく、存在からにじみ出る、伝わるものとおっしゃいましたが、まさに体現している方でした。最後まで釘づけでした。さすがでした。

(男女共同参画啓発推進委員 小田邊美香)



俵先生と男女共同参画啓発推進委員

参加者の声

とても感動しましたし、ことばの大切さ、それはハートから出てくることを知りました。(50代女性)

自分らしく生きる 生き方 簡単な様で難しいけど 今こそ出発点 よく理解できたと思います。ありがとう。(60代男性)

楽しく働くこと・・・働くことは女性は特にサポートしてくれる人がいるからこそで、楽しく働けるのは恵まれた人だと思っていたが、俵さんはいろんなハードルをこえながら、明るく楽しく働ける様自分のモチベーションをもちつづけ、すばらしい内容を自らの体験を通して伝えて頂き本当によい話でした。

(40代女性)



正解がない2択

平成26年9月17日 第2回男女共同参画セミナー
講演 防災士のトシ子さんと考える“地域防災力アップだ”
～女性の視点・男性の目線～
防災士 江崎 俊子（えざき としこ）氏

女性の視点・男性の目線

参加者の声：

- ワークショップの方が意見が出やすく良かった。考え方が色々でおもしろかった。
(60代女性・自主防災組織)
- 同じ考えや全く違う考え方があり結果は同じということになることがあった。
(60代男性・自主防災組織)
- 1時間あっという間でした。男性女性の意見の違いなど、興味深く感じました。
(20代女性・一般)



江崎俊子さん

自主防災組織長や市民の方々と一緒に、ワークショップを行いました。まずは、『防災と聞いて頭にピンと浮かんだ言葉』を書きました。備え・ハザードマップ・情報・避難経路・命・知識…等々書かれていました。十人十色といいますが様々な言葉がテーブルの大きな紙に貼り付けられていき、ただ「防災」という一つの単語に対しても、イメージするものが違うのだと思いました。次に、クロスロードゲームというYes・Noのカードを使うワークショップです。『あなたは避難所の食料係を任せられました。避難所には200人がいます。そこへ100人分のお弁当が届きました。次にいつ食料が届くかわかりません。あなたはどうしますか』[配る]はYes[配らない]はNoのカードを自分の前に伏せて出します。「せーの」の掛け声で一斉に表向きにし、なぜそのカードを選んだのかグループで話します。不公平だから配らない・子どもやお年寄りに先に配るなど様々な意見を聞いた後、もう一度カードを選び直します。YesからNoへ、NoからYesへ変わる人もいました。なるほどこういうこ

とも想定しておかなければ実際に直面するかもしれない状況には対応できないと、ハッと気づかされた思いでした。『あなたは中学1年生です。川のすぐそばに住んでいます。朝からの雨がやまず、川が増水してきました。今は夜の10時です。避難勧告がでました。自宅では75歳の祖母と小学1年生の妹の3人で留守番をして、両親はまだ仕事から帰ってきません。あなたは避難を始めますか』[すぐ避難する]はYes[様子を見る]はNo。グループの意見は、隣近所に相談する・垂直避難する(2階に上がる)・父親か母親が帰宅するのを待つ…等。自分だけでは、思いつかない意見が飛び交います。そして、そもそもこの問いの想定が、男子中学生か女子中学生か、一軒家かマンションか等、人によって違うことに気がつきました。これだけ色々な状況があるなら、男性だけでは気がつかないこと、女性だけでは気がつかないことがあるかもしれないと感じました。皆さんは、この3つの問いに対し、どんな答えを出しましたか。

私の必需品は、みんなの必需品？

今回の防災セミナーはトシ子さんから3つの問いかけを考えましたが、それだけでも防災に対する意識の甘さ、細かな問題を想定したものになっていないかがよく分かりました。

「これだけは無いと困る」という必需品にしても、人それぞれに違います。薬であったり、乳幼児がいる人ならミルクとオムツ、アレルギー除去食等々。ここで欠かせないのが、男性だけではない、女性の視点です。

防災・減災・避難に関して、出来るだけ細やかな場面をそうていしておくこと「その時、私だったらどうするか」を考えておくことが重要なことだと思いました。

そして、何より、素早く判断して行動するために、地域の人たち(様々な世代の男女)が定期的に話し合える場を持つのは昨今の災害の起こり方を見ても非常に大切だと感じました。

(男女共同参画啓発推進委員 飯尾みどり)



クロスロードの様子



上野直美さん(サポーター)と江崎俊子さんと男女共同参画啓発推進委員

男も女も支えあわなければ、 戦国の世は生き抜けなかった

平成26年10月4日 第3回男女共同参画セミナー
講演 「歴史に学ぶ、ふり返れば未来」
～官兵衛、長政等、戦国の女たち～
講師：今長谷 照子（いまはせ てるこ）氏

戦の中の女たち

今回の講演は今、大河ドラマで人気の黒田官兵衛、しかも地元でなじみの深い歴史講座とあって会場は満席、たくさんの女性の参加が目立ちました。

群雄割拠の戦国時代、女性かというと武門の妻が取り上げられますがその裏で一見、戦いに関係なさそうな農家の女房でも、亭主が兵として参加したりして、必然的に戦いの渦中に入っていく。その中で女たちは一家の暮らしを守るため、したたかにたくましく生きていく、女は強いぞという話から入りました。

黒田官兵衛がどのようにして生まれたか。軍師としての3人の天下人に実力を認められどのように活躍したか。官兵衛のルーツや生き方に影響を与えた人々の話しなど、大河ドラマで触れられないところなども交え興味深く伝えていただきました。

この時代、武将の妻たちは主と共同体であり運命を共にしたその話の中で、三木城の別所長治の妻、有岡城の戦い中の荒木村重の妻や忍城戦記にあった妻など非業の死を遂げるが歴史の中を一生懸命生き抜いた女たちの熱いメッセージを受け取りました。

次に男女共同参画に通じる女性の話があり、前田利家と妻まつの話、お互い理解し助け合って加賀百万石の礎、そして加賀文化を作ったことや、官兵衛の妻で長政の母、光は波乱に満ちた人生を送るが、家臣からも慕われ幸せな老後を過ごしたこと。最後に長政の妻、糸のドラマに出ない裏話などがありました。

皆さん質問の時間が足りないくらい、楽しく歴史講座を学ばせていただきました。

その時代、時代で精一杯生き、男女同じように活躍していく



今長谷照子さん

先人の生き方に学ぶ

戦国時代の女性をいろんな切り口で語っていただきました。当時は、お家中心で政略結婚であったり、子に対しても人質的な縁組を結んだり、主が失脚すると運命を共にしなければいけなかったりで、理不尽と思え、そんな中、女性は家族を守り助け合ってその時代を精一杯生きたと思う。現在ではどうかするとお互いその心を忘れる。こんな時こそ、先生は大変な時代を一生懸命生き抜いてきた先人の生き様を思い出して生かして下さいと言われたのではないかと感じます。

今回は堅くなりがちな歴史を少し冗談も交えて話して載いて先生の暖かい人柄がでた講座でした。

（男女共同参画啓発推進委員 長崎正幸）



画：今長谷照子



今長谷先生と男女共同参画啓発推進

参加者の声

- ☞ 大河ドラマと重なり楽しい講演でした。歴史に学ぶ女達が精一杯生きて、自分の国を守った話が楽しかったです。興味をもちました。（60代女性）
- ☞ その時代に生きた人々、女だから、男だからでなく、その時々役割を果たしたんだと思いました。互いに尊重し合い、認めることで生活していけたらと思います。（50代女性）
- ☞ 時間を延長して、もう少し聞きたい内容でした。（歴史の話も、女性の話も）（60代女性）
- ☞ 非常に楽しく、面白かった。男女の区別はなくし、助け合って生きようと思う。（70代男性）



熱弁している今長谷照子さん

まずは実践!! そして継続!!

講演 ～10年後・20年後も成長し続けるために～
「中小・中堅企業が着手しなければならない3つのこと」
中小企業診断士 空 直美（そらなおみ）氏

人を育てることは、会社を育てること

参加者の声：

- 女性の力を引き出すことの出来る会社が大事が分かりました
(サービス業 男性)
- 自社の成長の定義を明確にする又社員に伝えることの重要性を認識できた (製造業 男性)
- 同じ家庭を持ち、仕事を続けている空先生のお話には共感できる部分が多かった
(建設業 女性)

平成27年2月24日(火)古賀市役所中会議室にて、「男女共同参画事業所セミナー」を総務課と商工政策課と共同で開催し、就業後にも関わらず、企業の経営者・管理者が参加され、古賀市男女共同参画啓発推進委員にも参加していただきました。
空先生の中小企業診断士としての豊富な経験と、ご自身の家庭の話も織り交ぜ、時折、会場にも問いかけながら、講演が行われました。10年後・20年後におこる「ひと」を取り巻く環境変化について、会社の寿命

30年説と組織のライフサイクルの説明と重ね合わせながら解説され、本題の「中小・中堅企業がまず着手しなければならない3つのこと」について、丁寧に説明されました。女性の活躍が今後いかに企業の成長の鍵を握るか、お話され、企業が成長し続けるためには、具体的にどのような取り組みをしていくとよいのかを、中小・中堅企業の取り組み事例として、3つ紹介し、締めくくりました。会場では熱心にメモをとる参加者の姿が多く見られました。



駆けつけた啓発推進委員と空直美さん



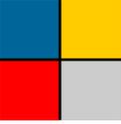
ユーモアをまじえ、会場に語りかける空直美さん

古賀市HPにコラムニスト トコさん登場！

テレビや新聞などで活躍し、辛口コメントでおなじみのトコさんに、男女共同参画について書き下ろしていただいた、トコさんコラム(全2回)を市ホームページから読むことができます。
第1回は「愛情の与えすぎは禁物だわよっ！」第2回は「働きガールへ～仕事と生活、どちらも楽しんでますか？」(3月中旬掲載予定)です。興味はあるけど、都合が悪くて、セミナーには行く

ことが出来なかった皆さん！いつでもどこでも、下のQRコードから、直接男女共同参画コラムが読めます。古賀市HPのトップページにもバナーがあります。トコさんといっしょに楽しく男女共同参画について考えてみましょう。





古賀市男女共同参画啓発推進委員
古賀市役所総務課男女共同参画係



問合せ先
古賀市駅東1-1-1
電話：092(942)1260(直通)
FAX：092(942)3758
電子メール：danjo@city.koga.fukuoka.jp



ホームページもご覧ください
<http://www.city.koga.fukuoka.jp/cityhall/work/somu/019.php>

男女共同参画啓発推進委員を募集しています！

身近にある問題や関心のあることをテーマにセミナーを企画してみませんか？

市では男女共同参画セミナーやつどいの企画や運営、事業所・地域及び団体等における啓発をする啓発推進委員を募集しています。男女が共に豊かに暮らせる古賀市を目指し、楽しく語り合い素敵なまちづくりを共にしていきましょう。

楽しく和気あいあいという雰囲気です。あなたも気軽に活動に参加してみませんか？



26年度の活動を終えて



陽先生と啓発推進委員など

3月を迎え、この1年を振り返ると、男女共同参画推進委員としてなにも貢献出来なかったと反省しています。今日は久しぶりに立花山登山をしました。頂上で話しかけてくれたおじいさんが、役場で配布してある立花山のパンフレットを私に下さいました。自分は若い世代にお世話になっているから、小さなことでも何か恩返しをしたいからということでした。聞くと御年82歳！足元を見れば、なぜ私はここで立っていられるのか、恩返しをする顔が次々と現れます。小さなことでも気持ちを伝えあって、手を差し伸べあうのが男女共同参画なのかなと思いました。1年間、皆様のご理解のお陰で委員を

務める事が出来ました。有難うございました。（江口 真由美）

今年も介護を通じた夫婦のあり方や、歴史の中の女性の生きざま・仕事を通じた出会いなど、つどいやセミナーで学びました。翼の会の報告では、海外の政策の違いや働く女性の様子を知り、刺激を受けました。家父長制の時代から女性も選挙権を得て70年になります。女性も仕事をし、男性も家事をという時代ですが、ワーク・ライフにケア(育児・介護)を含めて、ことさら育メン・家事男など言わずとも当たり前になり、男女が協力し支えあう、平等な社会の実現を願い伝えていきたいと思っています。（会長 結城 喜久代）